

| 特定行為区分         | 動脈血液ガス分析関連  |   | 時間 | 13 |
|----------------|---|---|----|----|
| 特定行為名          | (A) 直接動脈穿刺法による採血<br>(B) 橈骨動脈ラインの確保  |   |    |    |
| 学ぶべき事項         | (共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識  | 1. 動脈穿刺法に関する局所解剖  |    |    |
|                |   | 2. 動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント   |    |    |
|                |   | 3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方   |    |    |
|                |   | 4. 動脈血採取が必要となる検査  |    |    |
|                |   | 5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態  |    |    |
|                | (A) 直接動脈穿刺法による採血  | 1. 直接動脈穿刺法による採血の目的  |    |    |
|                | 2. 直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌   |   |    |    |
|                | 3. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等）  |   |    |    |
|                | 4. 患者に適した穿刺部位の選択  |   |    |    |
|                | 5. 直接動脈穿刺法による採血の手技  |   |    |    |
| (B) 橈骨動脈ラインの確保 | 1. 動脈ラインの確保の目的  |   |    |    |
|                | 2. 動脈ラインの確保の適応と禁忌   |   |    |    |
|                | 3. 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等）  |   |    |    |
|                | 4. 患者に適した穿刺及び留置部位の選択  |   |    |    |
|                | 5. 橈骨動脈ラインの確保の手技  |   |    |    |
| 研修概要           | (共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識  | 動脈を安全に穿刺し、動脈血を採取、あるいは動脈内にカニューレを安全に留置するための基礎となる知識の習得。  |    |    |
|                | (A) 直接動脈穿刺法による採血  | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、努力呼吸の有無等）及び検査結果（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的に 橈骨動脈、上腕動脈、大腿動脈等を穿刺し、動脈血を採取した後、針を抜き圧迫止血を行う。                                 |    |    |
|                | (B) 橈骨動脈ラインの確保  | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸状態、努力呼吸の有無、チアノーゼ等）及び検査結果（動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的に 橈骨動脈から 穿刺し、内套針に動脈血の逆流を確認後に針を進め、最終的に外套のカニューレのみを動脈内に押し進め留置する。 |    |    |
| 到達目標           | 1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、動脈穿刺による血液ガス分析、あるいは橈骨動脈ラインの確保ができるようになる。 |   |    |    |
|                | 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。   |   |    |    |
|                | 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。  |   |    |    |
|                | 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。  |   |    |    |
| 評価方法           | 講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト   |   |    |    |
|                | OSCE：評価表を用いた観察評価  |   |    |    |
|                | 試験：eラーニング上で修了試験を実施  |   |    |    |
| 研修内訳           | 講義（11時間）  | 視聴時間45分＋講義確認テスト15分  |    |    |
|                | OSCE（2時間）   | OSCEは、指定研修機関で行う   |    |    |
|                | 試験  | ※修了試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください  |    |    |

| 学ぶべき事項               |                                | 講師     | 所属                 | 研修方法 | 通番 |
|----------------------|--------------------------------|--------|--------------------|------|----|
| (共通) 動脈血液ガス分析関連の基礎知識 | 動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント      | 薬師寺 泰匡 | 岸和田徳洲会病院救命救急センター医長 | 講義   | 1  |
|                      | 超音波検査による動脈と静脈の見分け方             | 薬師寺 泰匡 | 岸和田徳洲会病院救命救急センター医長 | 講義   | 2  |
|                      | 動脈血採取が必要となる検査                  | 薬師寺 泰匡 | 岸和田徳洲会病院救命救急センター医長 | 講義   | 3  |
|                      | 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態 (1)    | 川原 加苗  | 福岡徳洲会病院 救急総合診療部    | 講義   | 4  |
|                      | 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態 (2)    | 川原 加苗  | 福岡徳洲会病院 救急総合診療部    | 講義   | 5  |
| (A) 直接動脈穿刺法による採血     | 直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌          | 鈴木 慧太郎 | 岸和田徳洲会病院 救命救急センター  | 講義   | 6  |
|                      | 穿刺部位と穿刺に伴うリスク (有害事象とその対策等)     | 鈴木 慧太郎 | 岸和田徳洲会病院 救命救急センター  | 講義   | 7  |
|                      | 患者に適した穿刺部位の選択                  | 鈴木 慧太郎 | 岸和田徳洲会病院 救命救急センター  | 講義   | 8  |
|                      | 直接動脈穿刺法による採血の手技                | 鈴木 慧太郎 | 岸和田徳洲会病院 救命救急センター  | OSCE | 9  |
| (B) 橈骨動脈ラインの確保       | 動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌              | 近藤 夏樹  | 亀田総合病院 集中治療科       | 講義   | 10 |
|                      | 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク (有害事象とその対策等) | 近藤 夏樹  | 亀田総合病院 集中治療科       | 講義   | 11 |
|                      | 患者に適した穿刺及び留置部位の選択              | 近藤 夏樹  | 亀田総合病院 集中治療科       | 講義   | 12 |
|                      | 橈骨動脈ラインの確保の手技                  | 近藤 夏樹  | 亀田総合病院 集中治療科       | OSCE | 13 |